

小牧探検隊II

《関係する事柄の解説》

1. 七福神

福をもたらす神として広く信仰されており、一般には以下の七柱の神とされます。

【恵比寿】古くは「大漁追福」の漁業の神でしたが、時代とともに「商売繁盛」や「五穀豊穰」をもたらす商業や農業の神となりました。鯛と釣竿を持っています。

【大黒】初めは破壊と豊穰の神でしたが、後に食物・財福の神となりました。福袋と打ち出の小槌を持ち、米俵に乗った姿が多く見られます。鼠が使いです。

【毘沙門】武神、財産神として、特に「勝負運」に利益があるとされてます。

【弁才天（弁財天）】「弁才天」の名は「才能技芸」を意味しますが、七福神の一柱としては「弁財天」と表記されることが多く、「財産富貴」の神となっています。水神の性格を持ち、蛇を眷属とします。

【福祿寿】福星（木星、「子孫繁栄」）・禄星（「財産地位名誉」）・寿星（南極老人星、「健康長寿」）の3つの星を神格化した、三体一組の神です。鶴・鹿・桃を備えます。

【寿老人】老子が神仙化した南極老人星（カノープス）の化身です。霊薬の入った瓢箪と不老長寿の桃を持ち、鹿を従えています。

【布袋】唐の時代に実在したといわれる仏教の僧です。「富貴繁栄」を司り、「堪忍袋」を持っています。

2. 小牧宿

小牧宿は上街道（木曾街道）に沿って町並みが作られました。街道は現在の上街道商店街から入って突き当たりの戒蔵院を東に行き、ラピオ西の交差点を曲がって北に向かっていた。

3. 田縣神社

御歳神（素戔嗚尊の孫で五穀豊穰の神）と玉姫命（尾張地方開拓の祖神である大荒田命の王女で、子宝・安産の神）をまつています。春の豊年祭は、男性のシンボルをかたどった大男茎形の神輿で有名です。

4. 小牧山

織田信長が美濃攻めの足がかりとして小牧山に城を築きました（1563年）。5段の壘壕の真ん中に城が立っている様子から「火車輪城」と呼ばれました。

5. 小牧市歴史館

小牧山の山頂にある資料館です。建物は、安土桃山時代（16世紀後半）に建てられた国宝「飛雲閣」をモデルにしています。

6. 徳川義親

尾張徳川家の19代目の当主で、小牧山を小牧に寄付しました。侯爵の位を持ち、貴族院の議員も務めました。「虎狩りの殿様」の異名（あだな）があります。小牧山の山頂の近くに銅像があります。

7. 間々観音

正式には飛車山龍音寺(注:「飛車山」は小牧山の別名)といひます。日本で唯一のお乳の寺として知られています。始まりは1508年あるいは1492年と言われ、その頃は小牧山の西側にありましたが、信長の命により今の場所に移りました。伝説では、鹿を射ようとした狩人の前に観音様が現れ、殺生の罪を悟った狩人がその地に堂を建てて奉仕したと言われています。その場所が小牧山の観音洞です。

8. 岸田家住宅

江戸時代の末期には脇本陣(予備の本陣)としても使われた旧家です。小牧市指定の有形民俗文化財です。建物の隣のポケットパークに置かれている福祿寿の像は、尾張徳川家の別荘「小牧御殿」にあったもので、義直が作らせたと言われています。

9. 小牧御殿

江戸時代に尾張藩の初代藩主・徳川義直が建てた別荘で、岸田家住宅の西にありました。義直が庄屋・江崎家の屋敷を訪れた際に、庭園からの眺めが気に入り、ここを御殿としたと伝わります。江戸時代中期には、敷地内に代官所や陣屋が設けられました。

10. パークアリーナ小牧

小牧市スポーツ公園内にある総合体育館です。2001年に竣工しました。公園内には、サッカー場、芝生広場、遊戯広場などがあります。

11. メロディーパーク

小牧駅東口にある公園で、市民の憩いの場として親しまれています。音楽噴水があります。

12. 妙林寺

1416年に建立されました。「こまきの大黒さん」として親しまれ、日本一の大きさの「鐘つき大黒天」の石仏があります。(裏に「金の成る鐘」があり、「鐘の音を聞けばご利益がある」とされています。)秋には「大黒さんまつり」が行なわれます。

13. 西町稲荷

元は1787年に尾張徳川家の菩提寺・建中寺に霊廟として建てられたものです。

明治8年(1875年)に現在の場所に移され、後に豊川稲荷をまつるようになりました。

壮麗な飾りは、華麗で当初の姿をよく残しています。

小牧市指定の有形文化財です。

